

土砂災害

足羽第一中学校三年 中谷 竜

僕は最近ニュースで、異常気象による多くの土砂災害が日本国内のみならず世界各国で発生しているという報道をよく見かけます。そして僕は、それらの報道を見て土砂災害に興味を持つようになりました。実際、日本全国で一年間を通して発生する土砂災害の件数は、平均で約一〇〇件から一五〇件程度であると言われており、年々その数は増加傾向にあることがわかっていっています。詳しく調べてみると、土砂災害の統計が開始された一九八二年の平均発生件数は、約一〇九九件であったのに対し、直近十年では約一五〇〇件まで増加していることがわかりました。そして、さらに土砂災害について詳しく知るために、その概念や歴史などをインターネットで調べたり、実際に災害を経験した両親から聞いてみました。まずインターネットを使

うことで、土砂災害とは大雨や地震などの影

郷で、山や崖の土砂が崩れたり、崩れた土砂が水と混ざって流れ出したりする現象だといふことが分かりました。僕自身は今まで土砂災害を経験したことがなく、ニユーヌを通して他県で起きた災害を見ることしかありませんでした。なので実際の被害がどのようなものなのか正直全く見当がつかせません。しかし、報道と比べている被害地や被害者の状況はとてもバカしいものだと感じます。特に、数年前に西日本で起きた豪雨による土砂災害のニユーヌ映像は非常に恐ろしく、その緊迫した状況に強い衝撃を受けたのを覚えています。

僕もいつか土砂災害に巻き込まれるかもしれないといふ実感はなにもないです。僕が住む福岡市も周囲を山や丘に囲まれた地域です。なので大雨が降れば川の水位が急激に上がり、山の斜面が緩む危険もあります。そしてテレビでも大雨の時は、土砂災害に注意してください。という呼びかけを聞くことすらありません。実際に、福岡県で発生した今まで主

な土砂災害を見てみる。昭和四十年に発生した奥越豪雨と平成16年7月に発生した福井豪雨の二つがある。ここが分かりました。僕の両親は福井豪雨の経験者なのでその時の話を聞いてみることにしました。父も母も冠水してしまつた建物の中の掃除のボランティアに参加したと教えてくれました。そして、山間部の土砂災害や道路の冠水だけでなく、福井市の中心部でも足羽川の決壊による道路の冠水、建物の一階部分などが水で溢れてしまつた。この被害もあつた。話をしてくれました。僕はその話を聞いて、防災は二次被害を防ぐために必要なのだと再確認しました。

しかし実際、もし僕がこの状況に立たされたらしたら何をすべきなのか分かりませんでした。呆然としてしまつた。思います。なぜなら、僕は土砂災害の防災について何一つ知らなからです。『防災』というものがいかに大切なのかを父と母の体験談からありありと感じたのは確かですが、実際に土砂災害

に對する防災はどんなものがあるのか分かりませぬ。今までに土砂災害の話を知り、避難訓練をするなどの経験を学校でした記憶はなく、身の回りで土砂災害が発生した時、自分や大切な人を守るために何をしなければならぬのかすらも僕は知らないのです。そこで僕は土砂災害の避難訓練はあるのかを調べてみることにしました。すると、福井県全体では七ヶ所の地域で、嶺北地方では越前市、南中山地区、越前町、宮崎地区、福井市、東郷地区、そしてあわら市全域の四ヶ所で行われていることが分かりました。しかし僕が住んでいる支那地区では行われていませんでした。これに對して僕は、たとえ山間部の地域でなくとも、全ての地域で避難訓練を行うことにより多くの人が正しい知識を身に付けることが出来るのではないかと、そしてそれが全ての人が大切な命を守ることに繋がっていくのではないかと思えます。僕も参加できる避難訓練があれば積極的に参加していきたいです。

さらに詳しい防災を調べていくと、日本政府はそのホームページで国民に、住んでいる場所が土砂災害警戒区域になっているのかどうかを国土交通省が提供するハザードマップポータルサイトや各市町村が作成するハザードマップを用いて確認することを呼びかけていました。また、土砂災害の主な前兆現象を表記しておくなどしていることが分かりました。

僕はこの作文を通して、天気予報をよく確認する、政府や自治体が提供する緊急情報をよくみる、そしてハザードマップを確認する、ということから始め、いくのに大切だと学びました。なのでこれから家族など防災を始め、いきいきといつときにも落ちて行動できるようになりたいです。